

じゅこう

第8号
(通算348号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

津村別院 報恩講

十一月十一日^{たいや}速夜^{じうちやう}から十六日^{じうちやう}日中まで本願寺津村別院(北御堂)におきまして報恩講法要がおつとまりになりました。(午前中の法要のこ

とを日中法要、午後からを速夜法要と言います)住職も結衆での出勤や奏楽員として出仕をさせていただきました。十五日の日中法要は本願寺派司教の内藤昭文先生のご法話でした。その中で「聞薫習^{もんくんしゅう}」という言葉をお聞かせいただきましたのでご紹介させていただきます。



ただきます。聞くということ、仏法をお聴聞させていただくということは、薫習、つまり物に香りが染みついていくように、心の最深部に影響を与えていくようになります。例えるなら「門前の小僧、習わぬ経を読む」ということわざがあります。門前で遊んでいる小僧さんは、習ったわけではないのに、知らないうちにお経が読めるようになっていきます。いつも本堂で勤まっておられるお経がいつのまにか身体に染み込んでいたのです。お聴聞は一度聞けば終わりでなく、聞き続けていくことで、阿弥陀さまのお心が染み込んでいくのではないのでしょうか。

津村別院 報恩講 参拝 願証寺 報恩講

十一月二十七日、願証寺さまの報恩講にお参りをさせていただきました。その時のおつとめは「報恩講作法」というもので、あまり馴染みのないものかと思いますが。親鸞聖人の曾孫にあたる本願寺、第三代ご門主の覚如上人^{かくにょ}が、聖人三十三回忌の時に「報恩講私記^{しき}」という書物を書かれました。その中で聖人のお徳を讃え、その恩に報いていく法要(報恩講)をつとめていきたいと思います。願証寺さまでは念仏・和讃と共に、この報恩講私記を新ご住職が朗々とご拝読されたことでした。

この報恩講私記は元々漢文で書かれてあるものを拝読の時には書き下して読まれます。なかなか意味を聞き取ることには難しいことですが、一つにはお念仏の教えは法然上人からお受け取りになりましたが、浄土真宗は親鸞聖人が起こされたことのお徳を讃え、二つには聖人自らが他力のお念仏をお勧めくださっておられることへのお徳を示し、三つには今も私たちは聖人の御影^{ごえい}の前に額^{ぬか}ずき、お念仏を弘めていこうと決意を新たにしますが、実はそのことも、聖人亡き後ですら、私に働きかけてくださっておられるお徳でありました、という内容となっております。



私たちのちかい

一・生かされて

いることに気づき

日々に精一杯

つとめます

人びとの

救いに尽くす

仏さまのように

御文章に聞く(第6回)

聖人一流の御勸化のおもむきは・信心をもつて本とせられ候、そのゆえは・もろもろの雑行をなげすめて・一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として・仏のかたより往生は治定せしめたまう、

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思います。

前回と同じ場所を、もう少し深めてまいりましょう。親鸞聖人がお勧めくださったこの浄土真宗は「他力の信心」が根本であります、と一番大事なことを述べておられます。実はこの出来事はとても大きな事件でありました。

親鸞聖人は師匠の法然上人から他力の信心であるお念仏の教えを受けられましたが、それは善悪、賢愚、男女、老少、貴賤、出家在家などをわけへだてすることなく、全ての者が阿弥陀さまの本願を信じ、お念仏を称えるならば平等にお浄土へ往生をとげるという内

容のものでした。ですが、それは比叡山を中心とした、奈良時代から伝わる、それまでの伝統的な仏教観を根底からくつがえすものでしたので、世間には受け入れられたものの、他の仏教界からは決して認めてもらえないようなものではなかったのです。比叡山の学僧たちは朝廷へ訴え、ついにはお念仏の教えは異端、邪説として禁止され、死罪や流罪にされてしまうという、念仏弾圧事件まで起こってしまいます。

親鸞聖人は決してお念仏の教えが間違っているのではないことを、また他の教えを否定しているわけではないことをあきらかにするために『教行信証』という書物をしたためられました。そこには「他力の信心」ということがきめ細やかに述べられていくのですが、他の伝統的仏教界に対して著されたものでしたので、非常に難解な専門書となってしまうました。それを一般の人に向けて噛み砕いてくださったのが蓮如上人の御文章だったのです。

仏教語辞典



大阿闍梨 酒井雄毅師

弟子の模範になるような位の高い僧侶のことをいう。阿闍梨は、サンスクリット語の「アーチャリーヤ」の音写で、教授、正行という意味があり、一般的に弟子を教える規範となる師であり、僧侶の階級の名称である。

阿闍梨

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。早いもので十二月、今年もあと一ヶ月となりました。十月、十一月、そして十二月と各地で報恩講のおつとめが勤まっています。お付き合ひのあるお寺には出仕をさせていただきまので、この時期はたくさんお聴聞することができて嬉しく思います。

「御文章に聞く」でしつこいくらいに「他力の信心」と書きましました。浄土真宗は全てが他力、阿弥陀さま側で仕上げられております。仏教は難しいと思われるかもしれませんが、私を中心にして聞くのではなく、阿弥陀さまを中心にして話を聞かせていただく、有難く味わうことができると思います。

時節がら、お身体ご自愛下さいませ。(釋法道)



- 一月一日(祝) 十四時より
元日会 法話 寺西寛水先生
(節談説教をお聴聞させていただきます)
- 一月十二日(日) 十時半より
仏教婦人会総会・新年会
(会員さんだけの行事となります)

行事案内

日時・十二月二十二日(日) 十時〜十六時
行事・こども会 冬のつどい
内容・お餅つきやゲーム、制作など
申し込み・十二月十五日までにお寺まで
ご連絡ください
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)